

「丸く」・「滑らか」・「剛い」

この3本柱のシェルづくりの基本思想を、
1970年代後半から現在に至るまで一貫して追求し続けています。

これまで、1950年からバイク用ヘルメットを
長年つくり続けてきて、規格などの変更があったにもかかわらず、
帽体のサイズや形状は大きく変えていません。

護る力を高めることに関して妥協を許さない考えは、
弊社代表・新井の「ライダーの頭を護るための手間とコストは惜しまない」という徹底した
理念のもと、「護る」可能性を少しでも高めたいと願う社員が集まる企業風土にあります。

高価な材料であろうが、たとえ手間のかかる工程であろうが、
護る力の向上のためならば迷わず採用し、
どんなに小さなことでも、アライの違いを確実に積み上げる。

この企業風土は護る力を高めるための源泉であり、
アライヘルメットにしかない揺るぎない強みでもあります。

今後もライダーの頭を護るを第一に、「護る力」の向上という終わりのない挑戦をアライは続けてまいります。

アライの 終わりのなき 挑戦。